

近年、虚血性僧帽弁閉鎖不全症（IMR）に対する置換術と形成術において12か月後の成績に差がないという報告がなされた。Degenerative MR と全く異なるこの結果の一因として弁下部組織が置換術では温存され、形成術では温存されなかったことが挙げられ、弁下部組織温存の重要性がますますクローズアップされてきている。

本 wetlab ではまず形成術における種々の乳頭筋吊り上げ法の理論と実際を習得してもらい、ついで乳頭筋接合術も試していただく。そして IMR でも乳頭筋をきちんと活用すれば形成術の方が benefit があるという新しい evidence を日本から発信していこうではありませんか？

最後に腱索温存置換術についても種々の方法を会得していただく。IMR に限らず乳頭筋腱索と弁輪の連続性の維持が心機能上有利に働くからだ。置換術は僧帽弁位でまずマスターすべき術式なので、腱索を温存して周囲の一步先を行こう！